

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	通信会社（社員）	お客様の様子	・年末を迎えると北海道は雪の時期に入るため、年内の雪が降る前に住宅工事を終えたいという人が増えることになる。さらに、今年は消費税増税前の駆け込み需要もあり、消費が活発になっている。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・消費税増税が確定したことで、住宅建築業界では駆け込み需要が発生している。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・7月から増加した外国人観光客の入込が今なお続いている。ホテルの予約状況をみても、国外での不安事情がなければ、この傾向がこのまま来春まで続くと思われる。日本人観光客の入込は大きな改善はみられず、良くも悪くもない状況にあるが、温泉地の11月の予約状況をみると、前年よりも満室の日が多く、底上げの効果が徐々に出てきている。一方、物販については、暑さが続いたため、秋物の販売が著しく悪く、苦戦している。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・客のなかに工事関係者が多くみられるが、そのほとんどが、職人がいない、重機がないとこぼしている。一方、当店の10月の売上は前年から3.5%のアップであった。10月に入り気温が下がり、特に日曜が寒くなったほか、台風26号や27号の影響で客足が乱れたことで売上が相当落ちるとみられたが、それでも前年を上回った。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・前年に実施したセールがなくなり、定価品メインの月となったことで、来客数がやや減少したが、売上は前年並みであった。紳士服、婦人服とも季節先取りのアイテムに動きがみられた。
		スーパー（役員）	単価の動き	・原材料価格の値上げにともない、価格の下落に歯止めが掛かってきている。単価上昇が売上の増加に結び付いてきている。
		コンビニ（オーナー）	来客数の動き	・全体的に小さな工事が増えたり、中国人観光客が増えていることで、当店の来客数も増加しており、その分、売上が上乘せになっている。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・秋冬物の衣料品や高額な着物などの売上が良かった。消費動向も新年を迎える準備段階に入ってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注量、販売量ともに上向きで推移してきている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・当地の観光客が増えている。飛行機の直行便が増えた影響もあり、外国人観光客の増加が顕著である。また、客に中高年層の夫婦が目立つようになってきており、来客数は前年比で13%の増加と順調である。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・週末を中心に観光目的の国内旅行が堅調である。近隣の東南アジアからの観光客は、新興のタイ、マレーシア、シンガポールなどが少ないパイながらも好調に推移している。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・ほたて、さけなどの管内の漁業が好調である。天候不順で心配された農作物についても、玉ねぎはやや小ぶりながらも作柄が良く、ビートも糖度が上がっているなど、好調である。9～10月は国内外からの観光客も堅調に推移している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・10月の当社のタクシーの売上をみると、1台当たりは前年並みであったものの、乗務員不足で稼働が悪かったこともあり、当社全体の売上は前年を下回った。暖かい日が多かったため、タクシーの利用が減ったとみられる。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・秋に発売した新商品に対して、客の引き合いがここ数年で最も多い状態であった。予約待ちの客も多く、販売状況が徐々に改善してきている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・今年の4月から、毎月、前年を上回る業況が続いている。10月の利用客数も、27日時点の数字で前年から約12%増加している。
パチンコ店（役員）	それ以外	・消費税増税前の高価物品の購入が目立つ。特に建設業の業況は今がピークではないかとみられるほどである。		

	美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比べても、前年と比べても5%未満ではあるものの、売上が増加している。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・中心街の百貨店の客の様子を観察していても、変化がみられない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・例年であれば、秋への切り替わりの時期ということで、アウターに動きがみられるはずだが、まだ客は襟元のマフラー等で暖かさをまかなおうとしており、なかなかアウターへと需要が切り替わっていかない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の雰囲気をもても、決して3か月前と変わった様子は無い。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前の7月と比べると、販売量並びに売上が約10%悪くなっている。ただし、7月は繁忙期で、例年、売上の増加する月であるため、そういった季節要因を除くとほとんど変わっていない。
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・婦人服のジャケット、コートは前年を5%程度上回っている。しかし、紳士服のスーツ、ジャケット、コート関連が前年と比べて10%程度下回っており、紳士服のウエイトが落ちている。
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・今月に入り、来客数、買上客数ともにマイナス傾向となっている。現政権の経済対策の効果で景気が上向きと報道されているが、恩恵はごく一部の富裕層に限られている。そのため、宝飾品、時計などの高額品や、一部の高級ブランドのプティックは活況を呈しているが、ボリュームゾーンであるヤングゾーンの衣料ブランドでは売上拡大につながらない。
	百貨店（役員）	販売量の動き	・9月は秋冬物の衣料品が動き好調だったが、10月はその反動もあり、厳しい販売量になっている。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・9月は寒かったことで売上が良かったが、10月に入り、9月に前倒しで売れた衣料品等が苦戦している。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・既存店の来客数が減少傾向にあるものの、単価は上昇傾向にある。加工食品の仕入価格が上昇しており、商品価格に転嫁せざるを得ない状況にある。
	スーパー（役員）	単価の動き	・9月と同様の客の動きとなっている。来客数が前年から2%減少しているものの、客1人当たりの平均買上点数は前年並みとなっていることに加えて、商品単価が前年から3%上昇していることで、客単価が前年と比べて上昇しており、売上を確保できている。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年比は横ばいの数字が続いている。生鮮品の売上は安定しており、前年を維持しているが、酒やたばこ等の免許品は販売量が落ち込んでいる状況が継続している。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・徐々に周辺の経済環境が回復している流れを感じるが、当業界ではまだ前年を下回る流れを脱していない。
	家電量販店（店員）	単価の動き	・客単価が前年から約1割下がっている。薄型テレビの売上がまだ復活していない。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・テレビや冷蔵庫の需要は微増であるものの、その他の商品がやや不調である。全体としてほぼ横ばいの状況である。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・北海道という土地柄、毎年、冬になるにつれて販売量が落ちていく傾向にある。ただし、これから先については、消費税増税を前にして駆け込み需要が出てくるため、少しは良くなる。	
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・消費税増税前の新車購入は増えているようだが、カー用品の購買については、競合店の状況をも前年と変わらない。	
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・医学や医療に対して不信感が出てきており、一方的な診療に対して、消費者が複数の選択肢を持つようになってきている。	
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が高値で推移しているため、販売量が減少傾向にある。	
高級レストラン（経営者）	販売量の動き	・材料価格の高騰により値上げに踏み切ったが、それにより客単価が下がっている。地方では景気が上向いておらず、客が財布のひもを締め始めている。	

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・11月上旬に3連休があるためか、今月下旬の数字が伸び悩んだ。また、平日の荒天時には予約客以外の来客がない日もあり、前年並みを維持するのがやっとであった。
	観光型ホテル (経営者)	単価の動き	・来客数は外国人団体客を中心に堅調だが、国内団体客の単価の低下傾向に歯止めが掛かっておらず、国内個人客の単価上昇を相殺している。
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・来客数、客単価などの点から変化はみられない。ただし、グループでの海外旅行件数が前年より減っている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前や前月と比べて、当社の状況は若干の持ち直し傾向にある。しかし、実際には、乗務員の慢性的な不足、それともなう稼働率の低下などを背景に、受注件数が伸びているにもかかわらず、全体の輸送実績が減少しているという逆ざや現象が起きている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・8~10月と注文数が前年比でほぼ同じくらいの実績であった。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・消費税増税の影響で消費の雰囲気が悪くなるのではと考えていたが、現在のところは以前とあまり変化がみられない。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・10月に入り、現行の5%の消費税が適用される、来年3月中に引渡し可能な分譲マンションに客の需要は集中している。しかしながら、そのような物件の流通在庫は少なく、売上が大きく伸びるというほどではない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・客との会話のなかで、買いたいものがないので無理して消費税が上がる前に買う必要がないという客が多い。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・今月16日の降雪以降、冷え込みが一段と厳しくなり、冬物衣料及び靴などに売上の増加がみられた。しかしながら、その他のほとんどの業種においては、逆に買い控えがみられ、全体としては販売量が減少気味である。
	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・前年は残暑の影響で秋物の動きが鈍かった。今年は9月後半から気温が下がり、それとともに秋物が本格的に動き出しているが、来客数、売上とも9月こそ伸びたものの、10月に入ってから、その反動で減少している。
	百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・3か月前までは来客数の割に買上客が多く、購買率が前年を上回って推移していたが、今月は買上客数が前年割れしている。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・9月の売上増加は復調の兆しかと思われたが、10月は販売量で前年比91%、売上で前年比94%と低迷している。
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・9月は消費税増税や東京オリンピック等の話題の影響があったことで多少良かったが、今月は厳しい。
	高級レストラン(スタッフ)	それ以外	・景気回復の実感がなくまま、消費税増税が決まったことで、将来への不安や給与の上昇がみられないことなどが消費抑制につながっている。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・客の入込が減ってきている。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・海外旅行の受注が激減している。
		タクシー運転手	販売量の動き
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・公共工事関連の輸送が前年より増加しているが、観光最盛期がほぼ終了したことから、全体の輸送量はピークを過ぎ減少している。
	悪くなっている		
企業動向関連	良くなっている		
	やや良くなっている	金属製品製造業(役員)	受注量や販売量の動き

(北海道)	建設業（従業員）	取引先の様子	・耐震改修促進法の改正により、特定用途大規模建築物の耐震診断結果報告が義務化されたことで、営業への影響が避けられない旅館業組合や病院のほか、その診断作業を行う設計事務所が対応に追われている。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が引き続き計画を上回って推移していることに加えて、単価もわずかではあるが上昇傾向にある。
	金融業（企画担当）	それ以外	・公共工事の増加と住宅の駆け込み着工で建設業界が好調である。国内、国外の観光客もＬＣＣの就航と円安効果で増加傾向が続いている。ただし、原材料価格の上昇で収益が圧迫されているほか、建設業界では人手不足で工期の遅れと受注回避がみられる。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・店舗拡大や設備投資回復の傾向がみられる。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・消費税増税を見込めて、前倒して設備投資を行おうとする傾向がみられる。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・客先の仕事量が増えたことで、商品の売上拡大につながっているほか、設備機械の受注がみられたことでやや良くなっている。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	取引先の様子
食料品製造業（役員）		受注量や販売量の動き	・受注については、季節要因を除けば変化はみられない。
家具製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・新築住宅着工戸数の増加にともない家具の受注も伸びている。特に大都市圏でその傾向が顕著である。
輸送業（営業担当）		取引先の様子	・10～12月の生乳の生産見込みが、北海道、他府県とも前年比98.4%となっている。これから最需要期を迎えて、クリスマスケーキ等でバターや脱脂粉乳の使用が増えるため、営業倉庫としては在庫減となり、倉庫業者にとっては痛手である。
輸送業（支店長）		取引先の様子	・上期までの活況感が若干停滞している。在庫を回転させる忙しさは続いているが、冬場に向けての安定的発注が少なく、入荷量にばらつきが出始めている。
司法書士		取引先の様子	・不動産取引、建物の建築等においては、一般的に消費税増税前の駆け込み需要による増加が見込まれているが、当地では現実的な話ではない。
司法書士		競争相手の様子	・不動産取引、建物新築のことを同業者に聞いても、景気回復による仕事量の増加はないとの回答が多い。景気回復の恩恵は、一部の限られた範囲の者にしか及んでないため、全体的な仕事量に関して変化はみられない。
やや悪くなっている			
	悪くなっている	-	-
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている		
(北海道)	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・人材紹介事業において、求人数が急増している。建設業以上にサービス業関連の求人が増えており、業績は横ばいのようなのだが、企業活動が活発化してきている。企業による派遣のニーズも高まっており、3か月前よりも派遣の稼働率は10%強の伸びを示している。企業内における業務量が間違いなく増えているとみられる。今後は、これが企業の業績拡大につながるのが課題である。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人情報誌が前年から16%ほど増加している。新規出店もあり、特に飲食、サービス業で人材確保が難しくなってきた。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数は相変わらず堅調に推移しており、前年から1割強の増加で推移している。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・コンビニ、スーパー、生活関連などの小売業が堅調である。運輸や建設、介護系は、人手不足とニーズの高まりが相まって、求人数が増えている。道外の製造業の求人も徐々に増加している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から13.1%増加し、44か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から18.5%増加し、44か月連続で前年を上回った。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数に若干の減少がみられた一部の業種を除き、全体的には求人数が増加傾向にある。特に、建設業ではこれまで建築分野での求人が増加していたが、土木分野においても求人の増加がみられるようになってきている。
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・求人数が増えてきているが、求職者の求める職種が少ないため充足していない。人という意味での需要はあるが、職業選択の自由により供給が進まない状況にある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上は前年比99.9%と横ばいであった。売上構成比率の大きい派遣業が前年比75%と大幅に減少したものの、上位2～7位の業種は前年比を大きく上回り、派遣の落ち込みをカバーした。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・9月の新規求人数は前年を5.6%下回った。新規求職者数は前年を8.3%下回った。月間有効求人倍率は0.82倍となり、前年の0.72倍を0.10ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は45.1%と高く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が継続しているなど、企業の手不足感が出てきているが、賃金面などの条件がアップしておらず、景況感の変化までは感じられない。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・4～8月までは採用状況が右肩上がりでも推移していたが、9月からは前年並みとなっている。今後、上向きに転じる要素もみられない。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-